目にはさやかに見えねども

藤沢市　森　要

藤沢市内でオオタカを20年程見ています。同地のオオタカ営巣成績が年々低下しており、何故なのか気になっていました。

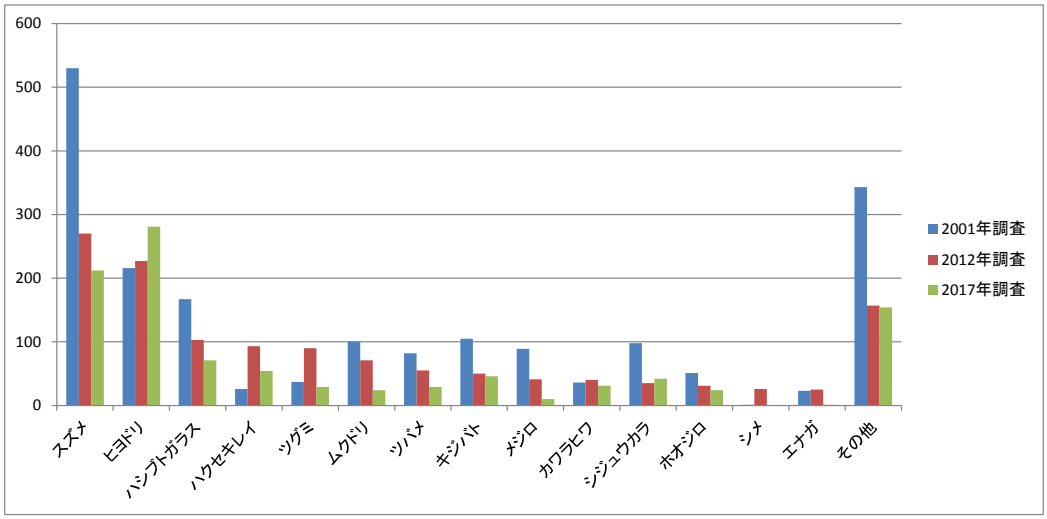
同地の自然環境は見た目にはほとんど変わっていない感じで、樹木は大きくなり、周囲の農耕地は耕作放棄地が増え、農薬を使う機会が減り、生き物には良い環境になりつつあると思っていました。

しかし、毎年見られた昆虫、クモが見らなくなり、何とか生息する昆虫の個体数をカウントとか思いましたが、当然、不可能です。

それでは野鳥を見ている身としては、ラインセンサスで野鳥の個体数はある程度、傾向が掴めると思い、同地で2㎞程の通路で2001年、2012年、2017年に毎月1回、年12回の野鳥ラインセンサス調査をして、結果を比較してみました。この調査の一部は鳥見仲間に協力頂いておりますが、まとめは当方で行い、データ引用の了解は得ています。

グラフは各12回分のカウントされた年間個体数の総計を示します。これを見ますと、野鳥個体数が年々、減りつつある傾向は変わっていません。これが野鳥を餌としているオオタカの営巣に影響している事は容易に想像できます。

特に餌の中心である、キジバトの減少は大きく影響しているのでしょう。その中でヒヨドリは数が増えていますが、漂鳥性で、秋に移動してきて、春に他へ移動するする個体が多いことは知られています。ヒヨドリの個体数増加はオオタカの営巣期とずれているため、オオタカの営巣にあまり寄与しないのかもしれません。中位の大きさのムクドリは元々、遠くまで集団で採餌で移動しますので、当地で見ることはほとんどなく、オオタカにあまり食べられていないようです。それにしても、スズメの激減は気になります。

野鳥全体が減っていることはそれを支える昆虫、クモ等の減っている事実と符合するのは理解できましたが、目にはさやかに見えねど、生態系に何が起こっているのでしょうか。

個体数（羽）